



発行所

県立芦屋高等学校

出版部

兵庫県芦屋市宮川町6-3

定期戦 特集

北の敗北の日

野球

拙攻目立った試合

▽去る五月十一日、西宮市民グラウンドに於いて、△県西との定期戦が行なわれた。今年はずしくも負△△けてしまったが、芦高、県西とも高校生らしく素△△暗しい試合を見せてくれた。

野球の試合は、県西の星野の宣言、そしてエル交が、今後は、基本的なプレーを全員が身につけることに決まるといふように、六回まで両校とも、無得点だったが、七回の裏、県西は、六番レフトの中条に、ランニングホームランを、一点を取った。八回の表、芦高は、三番ショートで、柴田がヒットで一塁に出た。反撃のチャンス。そこから、ワンアウトから四番の植村、五番の渡辺がヒットを飛ばして、柴田がホームイン。同点に持ち込んだ。芦高は、九回の表、最後の攻撃を迎え、ワンアウトから一番ショートの小西がスクイズを決め、三塁の秋山がホームインし、一点リードした。九回の裏、芦高は、県西のバッテリー三者を、フライに取り、一点を守り切り勝利を取った。

卓球

パーフェクトゲーム 完全試合



体育館の半面に、男女各だつた。四面ずつの卓球台が用意され、速やかに試合が始まりました。女子は、九試合中、二試合がダブルス、残り七試合がシングルス、残り七試合の内訳は、観戦できる試合選んだ。結果は、ダブルス、シングルス共に、全勝という素晴らしい結果が得られた。

バレーボール

手に汗握る熱戦

体育館に於いて行われたバレーボールの試合は男女共に観客の気持を捕えた好ゲームとなった。三年生は、高が先取し、好調を出だしていった。第一セットは中盤まで高がリードしていたが、ドリブルミスなどが目立ち、じわじわと追いつかれ、十一対十五で県西に取られてしまった。

第二セットも滑り出し良く、芦高の押せ押せムードのうちに試合を進めた。エースアタッカー兵頭(背番号四)の活躍が目立ち、結局高も盛り上がり、結局一五対一五の大差で芦高の圧勝であった。

剣道

無念・たった一本差



体育館の裏という目立たない場所ながらも、武道場中盤から後半にかけて、県西も粘りを見せた。約一時間の熱戦の末、十一勝十一敗に引き分けとなった。剣道場の満員だった。次に、女子五人戦が、団体戦で高が、勝った。

西にもついでいかれてしまった。数年前の勝利、春期リレー戦で思うようにならなかった。今日の試合は嬉しかった。ぬきつぬかれ、追いついてしまった。三年生は、中盤から一度引きはなされ、追いつけないものとなるかと思われた。この試合は、私が芦高チームの小粒揃いがよく健闘した。だが、観客をハラハラさせたが、第二セット、七対一五で県西に取られてしまった。

水泳

五月九日、対県西定期戦に於いて午後二時より水泳部の試合が行なわれた。芦高は、五月九日の佐藤君が男子二百メートル平泳ぎで唯一のトップになるなど、一年生の活躍が目立った。シーズン最初の試合だったため日頃の練習の成果が発揮できなかった。五十対四十四で県西の勝利に終わった。

裏表独語

核兵器について、今、日本では、非核三原則(核兵器を造らず、持たず、持ち込ませずという原則)の本来の意味が問われている。それは日本が、世界で唯一の原子爆弾被爆国として、非核三原則という方針を堅持して核兵器を否定しなればならないところを、実際はアメリカの核カサの下に包囲され、又持ち込まれたらどうするからである。この事実に対して日本に於いて午後二時より水泳部の試合が行なわれた。芦高は、五月九日の佐藤君が男子二百メートル平泳ぎで唯一のトップになるなど、一年生の活躍が目立った。シーズン最初の試合だったため日頃の練習の成果が発揮できなかった。五十対四十四で県西の勝利に終わった。

もろろん我々の核兵器を反対する理由として、放射能汚染という問題もある。しかし、我々日本人は、それだけの理由で核兵器を否定しなさいという問題がある。放射能汚染という問題もある。もろろん我々の核兵器を反対する理由として、放射能汚染という問題もある。しかし、我々日本人は、それだけの理由で核兵器を否定しなさいという問題がある。

体育館の裏という目立たない場所ながらも、武道場中盤から後半にかけて、県西も粘りを見せた。約一時間の熱戦の末、十一勝十一敗に引き分けとなった。剣道場の満員だった。次に、女子五人戦が、団体戦で高が、勝った。次に、女子五人戦が、団体戦で高が、勝った。次に、女子五人戦が、団体戦で高が、勝った。

バスケット

辛くも勝利!

声高キャプテン山村談

声高は、まずフリースローで一点を出した。幸先良い滑り出である。この先取点で声高は、前半のシューティングの中でも、常に有利な立場に立つことが出来た。そして、三十一対二十八と前半は声高リードのまま終わった。

後半も、シューティングが続き、しかし、選手層が薄く、声高は中盤に入ってから逆転していった。だが声高は残り時間五分と残り二十分、三つのリードを奮う決定的なシュートを決め、試合はそのまま終了、五十八対五十五で、声高が勝利を収めた。

「オフェンスは、徐々にリズムをつかんでいった。苦しくも勝利」と思う。

軟式 圧勝ノ男子団体戦

当日試合は、五十八人程度、団体戦三勝〇敗との観客の中で、予定通り十時に開始された。男女共三バレーが出場した。

男子の第一試合は、最終セツトまで、勝敗の行方がわからぬ試合展開だった。声高は、波に乗った声高が、女子の第一試合は、サードポイントが目立ち、本来のペースを戻すことが出来た。

”スポットライト”

今年の定期戦は、三回目を迎えた。中盤を過ぎ、目散北で幕を閉じた。二十二回中三回負けた。けななだからまあ良いのでは、との意見もあるが、その三回は曲者なのである。

さて、全体的に見れば少し盛り上がり欠けた。今回の定期戦ではあったが、一つ一つ見てみると、さすがという試合が数々あった。ここでは特に、数年前に敵戦した、勝利をもち取ったバレー女子にスポットを当ててみることにしよう。この日、メンバー全員(二年一人を含む)絶好調だったと思われ、一セツト目、出だしからアタックは次々に決まり、大幅にリードしていたが、中盤を過ぎ、目散北で幕を閉じた。二十二回中三回負けた。けななだからまあ良いのでは、との意見もあるが、その三回は曲者なのである。

ヤブチン、声高のチームは、七番の子の想像以上に高く、リバウンドの時に困った。今後の課題としては、もう少し引退なのでもう一度リバウンドで、リバウンドが上手に出るようになりたい。声高は、苦しい試合でたいへんだったが、去年の秋に比べて、新戦力の加入も期待する。

サッカー

声高は、まずフリースローで一点を出した。幸先良い滑り出である。この先取点で声高は、前半のシューティングの中でも、常に有利な立場に立つことが出来た。そして、三十一対二十八と前半は声高リードのまま終わった。

後半も、シューティングが続き、しかし、選手層が薄く、声高は中盤に入ってから逆転していった。だが声高は残り時間五分と残り二十分、三つのリードを奮う決定的なシュートを決め、試合はそのまま終了、五十八対五十五で、声高が勝利を収めた。

ラグビー

三年連続逆点勝利

五月二日、定期戦前半開始。五分は声高は三度先制、ラグビーの試合が目的は、ナールアームゴールを許し、六対九、三点を奪った。この日は午前中に降った雨のため、グラウンドは濡れた。しかし、声高は、逆転し、十対九とした。続いて十八分、十番酒井の貴重なトライで、十四対九と引き離した。その後、両校とも追加点のないまま試合は終了。三年連続逆点勝利を挙げた。声高は、後半に声高が、先制攻撃に動いた。声高は、先制攻撃に動いた。声高は、先制攻撃に動いた。

柔道

試合は、五月十一日午前九時三十分から西宮市民グラウンド柔道場で行われた。声高は、男子ダブルス二対一で東西の勝利となり、あと一歩というところだった。また女子ダブルスの方は、声高は二対〇で声高の圧勝であった。

一方、十二時三十分からは、男子シングルスは少人数で行われ、声高は、先鋒の戸松が、相手は一番強いといわれて、勝利を挙げた。

「定期戦得点表」

種目	声高		東西	
	勝	敗	勝	敗
水泳	44	55	8	0
卓球	3	4	3	0
軟式	3	0	1	2
硬式	4	5	4	3
陸上	69	76	42	21
バレー	0	2	2	1
バスケット	58	55	40	42
剣道	0	3	0	3

陸上

開技の結果、男子は、六十九対七十六と、僅か七点差をつけて圧勝した。女子は、四十二対二十一と大差をつけて圧勝した。

暑い日差し、強い風のなかで、長距離・短距離・幅の練習の成果を発揮、一部の人には感想を求めたところ、練習の成果を發揮、自己記録を伸ばすべく、全力を尽くした。



編集後記
声高新聞定期戦特集(二)が、五月二日のすべり(四号)をお届けします。当日は定期戦当日(五月二日)のすべり(四号)をお届けします。その点は、おなじみです。私達は時々「次の新聞に何を書くか」を悩まされています。その悩ましい声を支えに、出来上がった記事。最後に、当紙を出版するに当たって、皆様から御協力下さい。ただ、新聞製作途中に中